

MATSUNAGA HEADLINE NEWS



2015 Vol.26

TAKE FREE

発行元：株式会社 松永建設
 発行人：松永大祐
 〒339-0043 埼玉県さいたま市岩槻区城南五丁目6番6号
 TEL ▶ 048-798-1751 (代)
 TEL ▶ 0120-980-633 (フリーダイヤル)
 FAX ▶ 048-798-0075
 URL ▶ <http://www.matsunaga.gr.jp>

感動創造建設会社
株式会社 松永建設

安全管理体制を国から

「ご安全に!」を
 誓いの言葉に

受賞



松永建設はこの7月、昨年に続き国土交通省 関東地方整備局より「安全管理優良受注者表彰」を受賞いたしました。これは、受注した各種工事を「継続的に」「無事故で」竣工した企業だけが授かることのできる、大変栄誉ある表彰です。人命や健康・安全を尊び、事故を起こすまいとする最善の努力が評価されたと同時に、日頃から弊社が全力を挙げて取り組んでいる安全対策や、安全意識の向上が実を結んだ結果でもあります。非常に喜ばしい受賞となりました。

「安全管理優良受注者表彰」という誉れある表彰を受けたのは、去る7月14日。国土交通省 関東地方整備局の受注工事において、継続的に無事故を達成し、安全意識が高かった建設会社に対して与えられるものです。弊社土木事業部の永野長一部長は表彰の意義をこのように語りました。「たとえ小さな事故であっても、事故を起こすと最低3年は表彰対象にすらないという厳格なもの。安全第一で現場管理を行っている功績を認められたと同義であり、大変な栄誉です」。

表彰の審査対象となったのは6現場。利根川や江戸川の堤防築堤や強化に関わる土木工事現場で、社員のべ14名が携わりました。各現場におけるトピックは2面に譲りますが、それぞれにさまざまな施策を講じて安全に寄与しました。

「安全な工事」「事故のない工事」にはハード面とソフト面、双方の取り組みが欠かせないと、松永豪安全衛生委員長は説明します。「安全とは、端から端までくまなく目と気を配って初めて実現するものです。技能をはじめとするハード面だけが整っていても、事故が避けられるとは限りません。なぜなら事故の一番の原因となるのは、交通事故と同じで実は『ヒューマンエラー』だからです」。

土砂の運搬などを安全かつ適確に進めるための工事動線となる「仮設工事用道路」の整備。また車輛の安定走行を確保したり、既存のサイクリングロードなどを保護したりする目的で鉄板を敷き詰める「敷鉄板」の設置などは、いわばハード側の施策。重機を安全に運転する技能なども、ハード面に類するものです。こ

▲前列左より矢作和彦グループリーダー（土木事業部）、永野長一土木事業部長、松永大祐社長、三浦政則グループリーダー（土木事業部）、松永豪安全衛生委員長、後列左より磨谷整社員（土木事業部）、鹿山祐治主任（土木事業部）、瑞和博課長（土木事業部）、大栗和大社員（土木事業部）

れらハード側の取り組みは「最低限、成されないといけないもの」と松永委員長。安全を達成するのは、むしろその先のソフト側の取り組みです。これには、安全誘導員の配置はもちろん、「この先工事区間」といった周辺住民への注意喚起の看板や標識、作業員の安全意識を高める現場朝礼、パトロール、掲示板や口頭確認などなど、すべてが有機的に働いてこそ安全は成し遂げられるのです。

松永大祐社長は表彰をこう統括しま

す。「表彰を受けたからといって慢心は御法度。安全に終わりはありません。事故はお客様にとってダメージとなるばかりでなく、事故を起こした当人や家族の人生までも狂わせる、絶対に起こしてはならないもの。弊社の現場では、作業員同士が顔を合わせるたびに挨拶代わりに『ご安全に!』と声に出すよう慣行奨励していますが、その『ご安全に!』を誓いの言葉として、今後もより一層、無事故達成にたゆまぬ努力をまいります」。



▲今回表彰を受けた現場のひとつである「H24築比地中地区築堤工事」より。盛り土をし堤防を築く工事や、堤防断面積を太らせる強化工事は、河川の氾濫を防ぐなど私たちの暮らしの安全を守っている

安全管理優良受注者表彰:受賞者の言葉 「ご安全に!」を誓いの言葉に

●H23釈迦堤防強化工事

本工事は茨城県五霞町の利根川右岸側の堤防を拡幅する工事でした。現場は五霞町釈迦、しかし堤防を太らせるために必要な土砂は千葉県柏市船戸から採取と、2つの現場は30kmあまりも離れていました。このように輸送動線が一般道を通行したり、横断したりしなければならぬ工事の場合、最も大きな事故リスクは運搬車輛に関するものです。

「一般道の横断箇所や一般車の侵入予測箇所などを、くまなく地図に落とし込んで運転手に渡し、口頭と書面で注意を促しました。とくに危険な箇所は一時停止を徹底し、さらにガードマンを配置する手配も怠りませんでした」と後藤主任。毎日同じ運転手が現場に来るとは限らないため、必ず朝一番で各自に危険箇所や安全ルールを書面で提示し、サインをしてもらうなどの工夫も。「作業員には『ま



土木事業部
後藤淳宏主任

たか』と辞易されてばかりでしたが、これも安全のためと全面協力してもらいました。松永建設の社名ステッカーを運搬車輛に貼ってもらうことも実施し、『社の看板を背負う』ことで、各自により安全運転を意識してもらったのも良かったですね。」

●H24川妻堤防強化工事

五霞町の川妻で堤防強化を行った本工事、安全面においては土砂運搬中の事故防止が目下最大の目標でした。ダンプの輸送動線が、日頃住民がサイクリングや散歩で慣れ親しんでいる天端道路(堤防の突端に造成された道路)を横断しなければならなかったからです。天端道路を保護するため、横断部には敷鉄板を設置しますが、そのままでは段差が転倒やつまずきのもとになります。鉄板の上にさらにゴムを敷くなどして養生し、看板設置などとあわせて住民に注意喚起を促しました。「運搬車は『走ってなんぼ』の世界なので、どうしても運転手は回数をかせぐことに執着しがちです。そこをくみつつも、くれぐれも無理をしないようお願いして回って汗だくになる毎日でした」と磨谷社員。

作業員が不在になる夜間も「対住民」



土木事業部
磨谷整社員

の点では気が抜けません。危険箇所にはソーラー蓄電式の夜間街灯を設置し、さらにカラーコーンや振動体感マット(その上を走るとガタコトと振動を感じるもの)の設置で工事区間であることを喚起するなど、二重三重の配慮が無事故につながりました。

●H24築比地中地区築堤工事

河岸掘削を行い、川幅を広げることによって水位を下げる、という難しい工事が付帯したのがこちら、北葛飾郡松伏町築比地(つきひじ)の江戸川の築堤工事です。河岸土砂を掘って河水を引き入れながら進める工事のため、作業員の足場の安全確保と、事故による河川への油の流出などを防ぐことが第一です。

しかし、「実はそれ以上に大変だったのは、連絡調整や工事動線の整理でした」と田中課長。天候などの諸事情により工期がとて短かった上に、隣接する複数の他工区との同時施工となり、足並みをそろえて一気に仕上げるのが必須に。従って、工区同士が連携するための密な連絡調整が欠かせませんでした。加えて、複数同時施工ゆえに入り乱れがちな工事車輛の動線をできるだけシンプルに整える必要もありました。動線



土木事業部
田中吉朗課長

の整理は、工場などの整理整頓同様、安全と密接に関わっています。「今さらながらですが、本工事を通じて我々の至らぬ命題である『現場管理』という仕事の難しさ、大切さを痛感しました。小さな配慮の積み重ねが大きな安全を生むことを、改めて学びました。」

●H24新川通堤防強化(上)工事

「地道な活動には違いありませんが、我々建設業界を挙げて行っている『災害防止協議会』が安全に果たす役割は非常に大きいと思います」と語る埴課長。災害防止協議会は月に一度、作業所長を筆頭に、元請けからも協力会社からも人員が集まり、安全目標を決めたり、工程のすり合わせをしたりするもの。連絡不足が原因で事故や労災が起きることのないよう開催します。

「何より怖いのはヒューマンエラー。『気をつけましょう』と連呼するだけではなかなか意識に浸透しません。注意散漫を防ぐためヒヤリ・ハット事例集を作成して周知徹底させたりし、あらゆる手段で事故防止を図ります。」

ほかの工事も同様ですが、加須市新川通の利根川右岸の堤防強化を行った本工事でも、仮囲いやゲートの設置など、



土木事業部
埴和博課長

誤って周辺住民が危険な工事区間に立ち入ったりすることのないよう事前準備をしっかりと行い、施工に臨みました。しかし、さらに一歩上をいく安全対策も実施。夜間パトロールや、竣工後に作業員全員で現場の清掃と美化に努める活動なども、安全への大切な道程です。

●H25下川原堤防強化(上)工事

「羽生市の利根川堤防を拡幅強化した本工事は、工期が四季にわたる長いもので、かつ盛り土から道路造成まで、多種複合的な工事となりました」と(伊地知主任)と、非常に挑戦しがいのある内容だった模様。河川が増水しやすい出水期には堤防の外側を、逆に

非出水期には内側を集中的に施工するなど、自然環境に対する創意工夫の連続で乗り切りました。中でも、工期が夏の暑い盛りを完全にまたいだため、作業員の体調管理には重点を置きました。「水分補給の促しや、体調の良・不良を確認し合ったり、朝礼時のラジオ体操などが



土木事業部
鹿山祐治主任



土木事業部
伊地知徹主任

ら察知する努力をしました。また仮眠もとれる休憩所を設け、よしずで囲う工夫もしました」と(鹿山主任)。よしずは物理的にエアコンの効きを良くする利点以外にも、心理面で得られる涼感も大好評だったといいます。健康や衛生もまた、安全と直結する大事なファクターです。

●H25平野道上堤防強化(上)工事

こちらの加須市新川通の堤防強化工事、サイクリングロードになっている天端道路をダンプの輸送動線が横断する形でした。「最近ロードレーサー・タイプの自転車とどばす人が多いので本場に冷や冷やします。接触や転倒事故を防ぐのにかなり気をつかいました」と(大居主任)。疎まれるのは承知の上ですが、ガードマンにはできるだけ自転車走行者には降車を促すよう徹底し、安全対策に慎重に取り組みました。また、至近に宅地などがあった本現場では、住民とのコミュニケーションもとくに重視しました。週に一度は住民宅を訪問し、



土木事業部
大居武彦主任



土木事業部
大栗和大社員

工事の意義や進捗状況を知らせたり、不便を強いていないかを尋ねたりしました。そうした交流と努力の賜物でしょう。「竣工後に『いいのができたね』と声をかけていただけたのが何よりのご褒美でした」と、堤防工事を初めて担当した若い大栗社員は感動の面持ちでした。

お客様の
ご紹介

立地と周辺環境を考え抜いた「若いファミリーが暮らしやすい」高品質賃貸マンション完成!

ABオービット『エール南浦和』高野様



▲美恵子様が奥様らしい視点でこだわったキッチンは、借り手＝住む人の使い勝手を考え、標準仕様以上の装備にアップグレード

もう40年も南浦和の地に根づいている人気の幼稚園『学校法人 睦和学園 浦和若竹幼稚園』を営まれる高野様ご一家が、この度、そのすぐ裏手に鉄筋コンクリート造の高収益賃貸マンション(ABオービット)『エール南浦和』を完成させました。南浦和駅から徒歩にして約15分、通勤に便利な住宅街という立地もあり、若いファミリー向け3階建ての白い瀟洒な建物です。

「驚きました。ABオービットは立地や周辺環境から最適な入居者層をまずイメージし、その家賃設定から逆算して収益を計算、建物プランを考えていくんですね。おかげで安心感をもって進めることができました。住宅街のま

ん中であること、私どもが幼稚園を営んでいることなどから、近隣の方々と良好な関係を維持したいという気持ちも非常に汲んでくださって、日照を考えた低層の造りや周辺から浮かないような意匠などでも配慮があり、とても助かりました」(高野喜助様)。

また、「どんな会社もプロである以上、恐らく施工技術的には大同小異でしょうから…」と、むしろこの度の工事では弊社のさまざまな「配慮面」に最も感銘を受けたとも語ってくださいました。「工事中の騒音・振動対策や園が近いゆえの安全対策はもちろん、館名を決めるのに6カ国語の辞書を貸してくださいました、館銘板をさまざまな字



▶右は高野様ご一家で営まれている浦和若竹幼稚園。写真左上より理事長の喜助様、園長の美恵子様、事務主任の孝和様



体で提案してくださったり…。最後まで細やかな心づかい、そこに何より誠実さを感じました」(高野孝和様)と、ありがたいお言葉を頂戴しました。

広い園庭と「のびのび保育」が自慢の若竹幼稚園同様、エール南浦和もまたいつまでも地域に根差した存在となりますよう、お祈りいたします。



▲建築事業部 沼野賢太所長。「お客様に伝わりやすい言葉・表現で説明をすることの大切さなどを実感しました。初めて務めた現場所長職は感慨深く、大いに勉強になりました」

学校法人 睦和学園『浦和若竹幼稚園』様へのお問い合わせは▶▶▶TEL: 048-863-6081 まで

【住所】〒336-0024 埼玉県さいたま市南区根岸3-11-3
【URL】 <http://www.urawa-wakatake.jp>

平成27年度

松永建設・大樹会安全大会を開催



『松永建設・大樹会安全大会』は、共に建設に従事するもの同士、松永建設と協力会社とが一体となって安全意識の向上をはかり、無事故と安全を期す、年に一度の会合です。

去る6月17日、弊社社長 松永大祐の安全への所信表明を皮切りに開催された「平成27年度 松永建設・大樹会安全大会」。弊社の社員と協力会社で構成される大樹会の会員各社など150社500名以上を集め、大宮ソニックシティホールにて盛大にとり行われました。安全大会は、すべての工事において無事故・無災害を徹底するために、安全への意識を高めようと催すもの。建設業界広しといえども、毎年これほどの規模で安全大会を実施している会社はあまり聞きません。「松永建設・大樹会安全大会」は弊社の誇りであり、日頃から取り組んでいるパトロールや朝礼、危険予知活動などと共に、安全への確固たる気概の表れであると自負しています。

安全大会では、来賓の方々による安全に関する講話や参加者全員での安全宣言の唱和などが行われます。無事故・無災害とくに際立って寄与した各員へ、その努力を称える表彰も行っています。また、社員や作業員から安全標語を募集し、優秀作を当日発表、全社を挙げての年間目標に掲げる活動もなかなかユニークです。今年は以下の3標語が選ばれました。

- ・安全は 人にたのむな まかせるな
自分で作る 無事故の職場
- ・思い出せ ヒヤリですんだ あの教訓
今日も守って ゼロ災害
- ・やったつもり 見たつもり

「つもり」積もれば 事故の元
上からの「押しつけ」や「義務」ではない、各員の積極性や自発性、創造性が生きた取り組みと言えるのではないのでしょうか。

大会の目玉は、特別ゲストによる恒例の講演です。一流を極めたスポーツ選手など、主に世界を相手に日々奮闘している方——言い換えるならば、リスクと隣り合わせながらも大きな舞台に挑んでいる方を毎年お招きし、その魅力的な生き様を語っていただく中で、広い視野を持つことの重要性・リスクヘッジの考え方を学ぶ貴重な機会となっています。今年はアルペンスキーヤーとして活躍された岡部哲也氏をお迎えし、興味深いお話に耳を傾けました。

松永社長の力説する「安全はすべてに優先する」「安全なくして成功なし」を常に胸の内でも反芻しながら、社員・作業員が一丸となって安全に向け、これからもたゆまぬ努力をしていくことを誓います。



▲今年の特別ゲストは岡部哲也氏。オリンピックに3度出場し、また日本人として初めてスキーフールドカップの表彰台に上るなど世界の第一線で活躍された

▶松永建設社員、協力会社社員らが一同に会する安全大会。「ご安全に!」を誓いの言葉に、安全への意識と志を一本化する



岩槻名所めぐり

Special版

連載第3回「人形のまち 岩槻まつり」

昭和51年に第1回目が始まって以来、今年で40回目を迎えた『人形のまち岩槻まつり』。岩槻城下の自然と歴史、伝統や文化を継承する真夏の一大イベントとしてすっかり定着しました。今年は岩槻区が誕生して10周年ということもあり、8月23日(日)に開催された『2015 人形のまち 岩槻まつり』は二重のお祝いムード。例年以上の盛り上がりを見せました。

名物「ジャンボ雑壇」をはじめとして見所の多い岩槻まつりですが、祭りの始まった当初からあったのは「人形仮装パレード」で、しかも十数台ものハーレーダビッドソンを連ねた大型バイク隊が先導する、華麗で大がかりな行列だった…というのをご存じでしたか？

本コラムは今回スペシャル版と称し、そんな岩槻まつりの歴史と秘話を取り上げることになります。スタート当初から祭りに携わり、その変遷を見守ってこ

られた岩槻まつり実行委員長の高橋三男氏にお話を伺いました。

「街のシンボルとなるイベントを起ち上げ、岩槻を盛り上げようという大号令の下に始めたお祭りだったものから、それはそれは気合いが入っていましたね。その象徴がハーレー隊だったと言えるでしょう。今振り返ると多少“やんちゃ”な企画でしたね。お内裏様とお雛様を公募し、花電車のように飾り立てたトラックの荷台に乗ってもらい、それをハーレー隊が先導、実に華々しい行列だったのを覚えています」

その後パレードは、時代の流れに則して風情を重視するようになるなどムード自体は変わりましたが、お内裏様とお雛様をその年に結婚する(した)地元カップルから選ぶ伝統は変わっていません。神主さんにご祈祷を上げていただいて壇上で挙式をし、祭り全体をあげて二人を祝福するのも、なんと



▲世界一としてギネスにも登録されている岩槻まつりのシンボル、ジャンボ雑壇。写真提供：さいたま商工会議所



▲さいたま商工会議所副会頭で岩槻まつり実行委員長の高橋三男氏

も心温まるトピックです。

ちなみに幅10m、高さ8mで7段組という破格のジャンボ雑壇は、ちょうど岩槻まつり史の中間点ともいえる20年ほど前にギネスブック掲載を目指してスタートしたものです。もちろん目的は果たされ、今も「世界一の雑壇」は不変です。その後も巨大な「武州岩槻万燈みこし」などが徐々に加わっていき、つい3年ほど前には日本三大奴のひとつ「岩槻の黒奴」が復活を果たすなど、成熟しつつもたゆみなく変化を遂げている祭りであることがわかります。40年の伝統の上にどっかりとあぐらをかくのではない「攻めの姿勢」を感じますが、

そこには高橋氏のポリシーが深く関係しています。

「伝統は単に受け継ぐだけではマンネリ化するのみ。人の心に響かなくなり淘汰されてしまいます。古きを大事にしながらも新しい価値観を加える——つまり、伝統も文化も常に息づいてこそ初めて価値あるものとなるのです。これは亡くなられた松永功会長の薫陶でもあります。『岩槻を活気ある街に』と、生涯をかけて街の振興に取り組んだ松永功会長の志を継ぐことが、実行委員長としての私の使命。皆様、これからも岩槻まつりを、そして岩槻を盛り上げてまいりましょう」

サマーフェスを今年も元気に開催！@岩槻まつり

松永建設グループは8月23日(日)開催の岩槻まつりに今年も元気に参加しました。新入社員が万燈みこしをかついで若い力を発揮したほか、部署ごとに腕を振るったB級グルメ王決定戦など、社員総出で満喫！ご来場くださった皆様、ありがとうございました。



▲アイデアと企画力を競うB級グルメ王決定戦は予想以上に社員の料理力が高く、うれしい驚き。社長率いるバンドをはじめとするステージも大いに盛り上がった



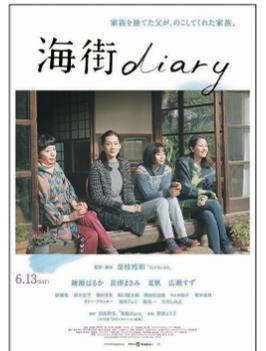
弊社CMがリニューアル テレ玉にてオンエア中

弊社が提供するテレビ埼玉のビジネス情報番組『埼玉ビジネスウォッチ』。番組中に放送される弊社CMが9月よりリニューアルしています。番組は毎週土曜22:00~22:30、再放送は翌・日曜11:30~12:00の放映です。ぜひご覧ください！



▲活気ある様子をお届けするCMに仕上がりました。女子社員も撮影に奮闘。目に留めていただければ幸いです！

映画のロケに弊社が登場！



映画『海街ダイアリー』の中で、長澤まさみさんが花火を見上げているシーンが弊社屋上で撮影されました！DVDなどご覧になる機会がありましたら、どうぞご注目ください。

社長の 男気 コラム

トップたるもの、自らが「見本」とならねば！ 経営者として示した「健康増進計画」

現在、私、減量に取り組んでおります。というのも、恥ずかしながらここ数年、自らの最高体重記録をひたすらに更新し続ける事態に陥ってしまっていたからです。最近ではゴルフをしてもハーフを終るともう腰が痛く、だましまし続けたところで、スイングは全く腰が回っていません。つばさに体調の悪さを実感していました。

これでは、どんなに日頃社員たちに安全の大切さを説いたり、「仕事にしろプライベートにしろ、とにかく人生すべての基盤となるのはまず自身の健康・衛生！」と発破をかけたりしたところで、あまりに説得力がありません。むしろ、社長である私が率先して健康

増進に励み、自己管理を徹底することこそが見本になるのだと気づきました。体重計の数字をにらみつけ、「よし、減量に挑もう」と己をけしかけたのは、そうした理由からでした。

世にはいろいろな減量方法がありますが、私は筋力アップをはかり、基礎代謝を上げることでカロリー消費をかせぐ方法を選択しました。スポーツジムにせつせと通い、筋トレに励むと…なんと効果はテキメン。加えて「炭水化物抜き」も効きました。いわゆるパン、米などの主食や、根菜などの糖質分を摂らない方法です。ただし、炭水化物抜きを守ろうとすると、障害になるのはとくに昼飯時ですね。世の中に

あるランチという類の食べ物は、どれほど炭水化物に片寄っているのかを今回はつくづく痛感。幸い私はサラダなど野菜の大量摂取が苦にならないタイプなので、昼食の選択肢の乏しさを嘆きながらもなんとか頑張れましたが、

そして、おかげさまで2か月半で9kgの減量に成功！ 会う方からは「お、締まった？」とうれしい言葉をかけていただきました。…が、少々減量が性急すぎたようです。炭水化物をまた元通り摂り始めた途端に、あっという間の2.5kgリバウンド(苦笑)。せっかく落とした分が全部戻ってしまわないように、もう少し野菜寄りの食生活にして現状維持をはかるつもりです。私がか



▲減量でレースタイムも縮まりそうで一石二鳥!!

のところハマっているカーレースの世界では「10kg減量でタイム1秒短縮」という定説もあるので、ここで踏ん張れば、健康増進にタイム短縮のうれしいおまけ付きとなるはずで、減量しがいがあるというものです。もしお目にかかった際、「なるほど、確かに締まったな」と感じましたら、どうぞ皆様、率直にお声掛けいただくと幸いです。大きな励みになります！(笑)